



知の財産の多面的運用を目指して

学術情報の活用と発信

京都大学附属図書館は、蔵書数約 85 万冊（大学全体で約 600 万冊）を誇る国内有数の大学図書館です。創立より 100 有余年にわたり収集してきた膨大な所蔵資料の中には国宝に指定されている『(鈴鹿本) 今昔物語集』をはじめ、古文獻資料、特殊文庫など、貴重な資料が数多く含まれています。

また、学内で創造する学術・研究情報を発信していくため、平成 10 (1998) 年に電子図書館システムを導入・稼動しました。これによって、学内外でインターネットを介した貴重資料の画像や論文の閲覧、情報検索ができるようになった附属図書館は、学術情報の発信源としても重要な役割を果たしています。

平成 16 (2004) 年には、勉学や研究に必要な映像を閲覧できるほか、音楽等によるリフレッシュスペースとしても利用できる「メディア・コモン」が開設され、多くの学生・教職員が利用しています。



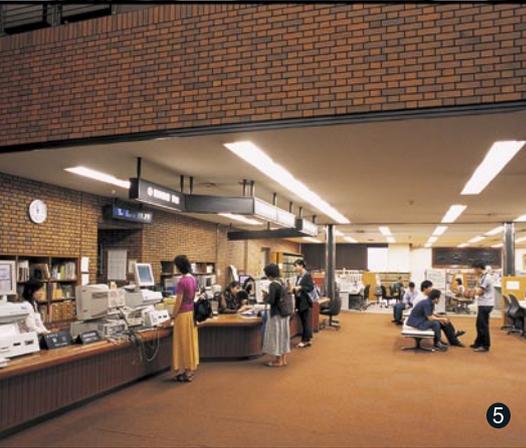
2



3



4



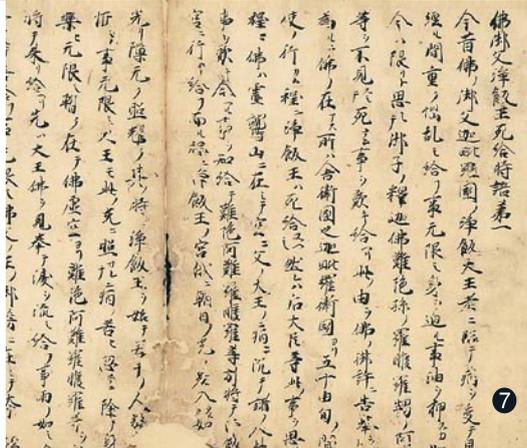
5



10

6

- ① 学習、研究スペースとして広く利用される附属図書館
- ② メディア・コモンの様子
- ③ 附属図書館閲覧室
- ④ 附置研究所の図書室
(人文科学研究所附属漢字情報研究センター)
- ⑤ 附属図書館メインカウンター
- ⑥ 所蔵図書を検索
電子図書館で閲覧できる貴重資料の例
- ⑦ 『(鈴鹿本) 今昔物語集』
- ⑧ 『國女歌舞伎繪詞』



7



8